

# リレーメッセージ

滋賀県 ST のよもやま話

03



ヴォーリズ記念病院  
北川 邦子さん

どんなSTを目指しているのか  
25年目で感じること

「言語聴覚士のお仕事は患者さんにとつてのホストさんやホステスさんになることよ」  
—この言葉は、学生時代に失語症学の恩師が私たちに話してくださいました。たし言葉です。当時は大亦衝撃を受けました。全く違う職種と聞いていたからです。ですが、このお仕事にうくとそれも納得。今も仕事に悩んだ際に思い出します。リハビリを通じて、いかにお話をすることの楽しさを感じ、「話したい」「伝えたい」と思っていただけか、この仕事の醍醐味だと感じていきます。音声言語に限らず、だれかとコミュニケーションを図ることが「生きる喜び」に繋がっていくと良いなとくづく感じます。

私の勤めているヴォーリズ記念病院は、回復期病棟や療養病棟、訪問リハビリ事業、ホスピスを含む総合病院で、私は回復期に所属して5年となります。30歳直前にこの業界に入り、患者様だけでなく、たくさんの方と出会い、先生の先生方、医療職の方々とお会いしました。特に、実習でお世話になった先生方と講習会や学会で再会した時には、大変に嬉しく、誇らしさを感じました。病院内の仕事だけでなく、外部の活動を通じて出会う人たちが出て、そうした出会いや経験が巡り巡り、病院内でのリハビリに生かされているのだなと実感します。

例えば、県の事業である「失語症者向け意思疎通支援者養成講座」に参加させて頂いているのですが、失語症支援者の方と街でばったりお会いし、その後の活動の様子や感想を

お聞き出来たことは良い経験です。県士会はもちろん、県士会以外にも滋賀県内では、さまざまな勉強会や交流会、チームがありま。身体がたくさんあれば全部行ってみたいくらい！音声言語勉強会や摂食嚥下勉強会など、今後も行けるものから参加してみたいなと思っております。私は今、認定言語聴覚士の取得を目標に勉強会や講習会へ参加していますが、経験値を積んで、より多くの患者様の「話す喜び」を引き出していける言語聴覚士を目指したいなと思っております。

最後に、私は地元が静岡県のため、もともとあまり滋賀県を知りませんでした。でも、この仕事に就いて私は、滋賀県のことについて詳しくなっているよう感じます。患者様と話す中で高頻度で話題に出る「滋賀の地酒」を家で飲んでみたり、「滋賀の観光地や美味しい食べ物など、教えていただいたものを休日に楽しんでみたり。この拙い文章を読んでもくださっている方の中でこれから言語聴覚士を目指す方がいたら、ぜひ、滋賀県をはじめ様々な地域、話題に興味を持って、たくさんの方の話をネタを持っておくことをお勧めします。私はこの仕事が好きで、まさに天職だ、たなあと思っています。

また皆様ともお会いできますように。  
ご高覧、有難うございました。

